

年度	学年
2022	中学1年

教科	数学科
科目(授業名)	数学科
単位数	5
区分	必修

授業概要	<p>数学の土台づくりとして、教科書に入る前に、まず小学校で学んできた「数」(自然数、0、分数、小数)の成り立ち(位取り記数法)や計算上の基本法則(交換・結合・分配)について改めて確認し、数そのものについての理解を深める。この際、文字を使った表現を導入することで、計算の仕組みや整数の性質を構造的に捉える練習を重ね、感覚的な理解・表現を大切にしながらも、論理的な理解・表現の習得を図る。また、生徒の活動においては、グループ及びクラス全体での対話の機会を多く取り入れ、共通課題のもとに他者と疑問や考えを共有し、ともに試行錯誤することによって、解決への道が開かれていく(道筋を立てる)体験を積み重ねていく。この活動を通して、論理的に説明する力も並行して養っていく。</p>
到達度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のもつ論理的で系統立てた見方・考え方で事象を捉えようとする姿勢が身に付いている。(主体性) ・数量を正負の概念で分類でき、その四則計算の方法を複数の視点で用語を適切に使いながら説明できる。(知識・技能) ・数量を文字式で表現することができ、与えられた方程式や不等式を工夫しながら解くことができる。(知識・技能) ・事象に対して方程式や不等式を立式し、未知数を求めることができる。(思考・判断・表現) ・図形の仕組みを条件に応じた見方で捉え、説明することができる。(知識・技能) ・図形の計量について条件に応じた立式ができ、未知数を求めることができる。(思考・判断・表現)

教科書	学校図書『中学校数学Ⅰ』			
補助教材 参考図書など	教材開発出版『Keyワーク数学Ⅰ』(問題集) 創元社『数の歴史』ドゥニ・ゲージ著(参考図書) 講談社学術文庫『数学の考え方』矢野健太郎著(参考図書) 新潮選書『天才の栄光と挫折 数学者列伝』藤原正彦著(参考図書)			
課題	任意課題:百ます/25ます計算プリント(LCに設置、スタンプカード有) 通常課題:プリントや教科書の問題、問題集の指定範囲 長期休暇課題:プリント冊子、問題集の指定範囲、レポート(数学の歴史)			
成績評価方法	①定期試験結果(素点合計)……80% ②課題の取り組み方・提出状況……20%			
定期試験	前期中間	前期期末	後期中間	学年末
	○	○	○	○

授業計画

学期	学習内容	備考
前期	<ul style="list-style-type: none"> ○数の分類 <ul style="list-style-type: none"> ・自然数(基本3法則、10進法、倍数・約数・素数) ・整数の足し算・引き算・かけ算 ・分数の通分と演算 ・小数と分数 ・比と割合 ○正の数・負の数 ○文字式 <ul style="list-style-type: none"> ・文字式の表し方 ・指数法則と整式※ 	<p>数の分類については教科書ではなく配布プリントで進める</p> <p>※「指数法則と整式」は中2の範囲</p>
	前期中間試験	
	<ul style="list-style-type: none"> ○1次方程式 <ul style="list-style-type: none"> ・方程式と恒等式 ・等式の性質 ・方程式の利用(連立方程式を含む※) ○平面図形 <ul style="list-style-type: none"> ・角の大きさで作図 ・図形の移動 	<p>※「連立方程式」は中2の範囲</p>
	前期期末試験	
後期	<ul style="list-style-type: none"> ○比例と反比例 <ul style="list-style-type: none"> ・座標 ・面積と長さ ・比例する2つの量 ・変化する量から変化する数へ ・比例・反比例を表すグラフ ○空間図形 <ul style="list-style-type: none"> ・空間図形の見方 ・正多面体 ・図形の計量 	
	後期中間試験	
	<ul style="list-style-type: none"> ○1次不等式※ <ul style="list-style-type: none"> ・不等号の種類と意味 ・不等式の性質 ・不等式の利用(連立不等式を含む) ○総復習 	<p>※「1次不等式」は高校数学Iの範囲</p>
	学年末試験	